

経営比較分析表（令和5年度決算）

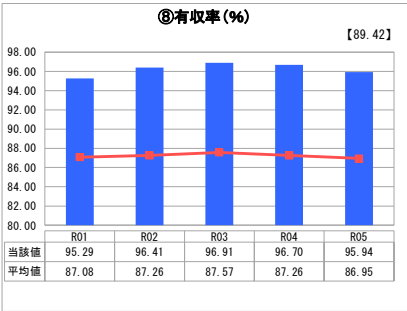
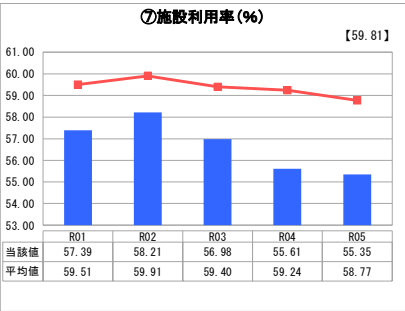
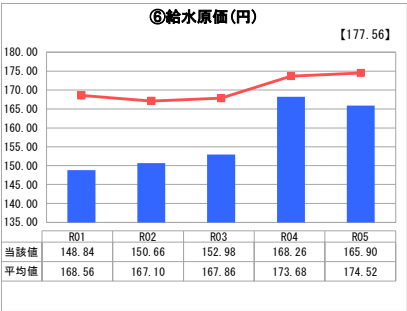
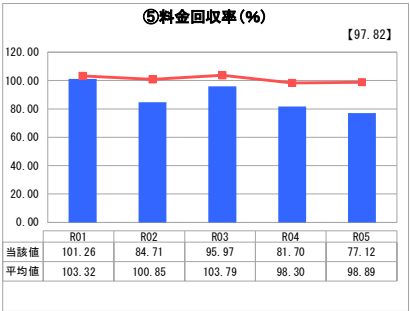
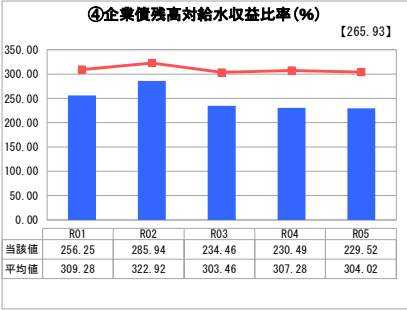
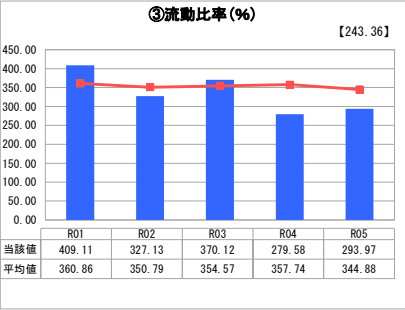
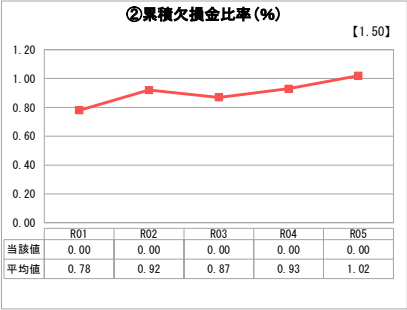
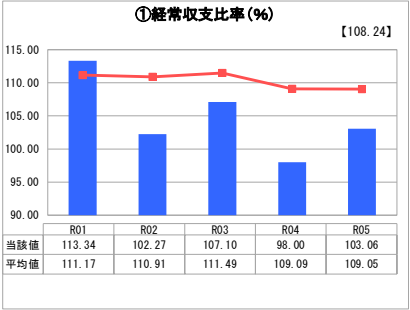
埼玉県 蕨市

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	79.45	100.00	2,475	

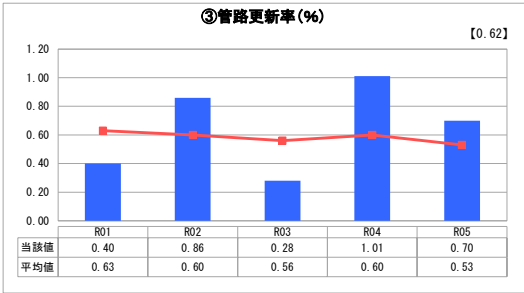
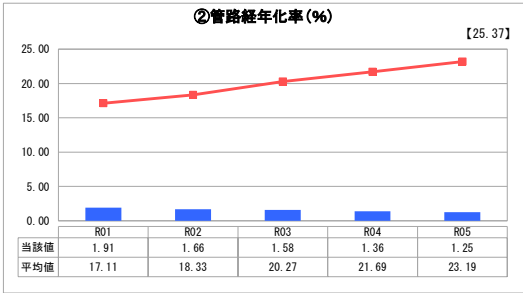
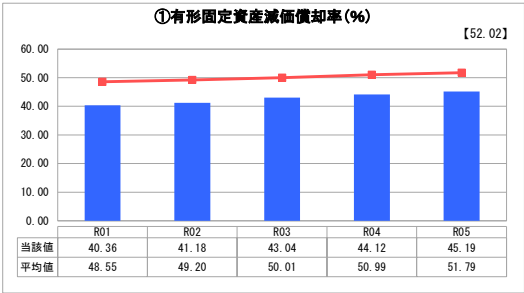
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
75,646	5.11	14,803.52
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
75,907	5.11	14,854.60

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は新型コロナウイルス感染症の流行以降、供給単価の高い営業用途の給水収益が減少している影響で、類似団体平均を下回っている。また、昨年度に対して、今年度100%以上に回復した主な要因は、高騰状態にあった燃料費の下落に伴う動力費の減少や、分担金収益の増加である。このほか、「②累積欠損金比率」は0%を継続し、「③流動比率」については、昨年度から類似団体平均を下回るものの全国平均は上回る状況が続いており、比較的安定的な経営状況を維持しているといえる。

「④企業債残高対給水収益比率」は、昨年度同様減免による給水収益の減少にもかかわらず、横ばいとなった。主な要因として、近年の借り入れ抑制に加え、一部の起債対象工事の翌年度繰越に伴い、その分の借入が翌年度になったことも考えられるが、下記「2.老朽化の状況」とおり、必要な更新は適切なペースで行われているといえる。

効率性の観点では、「⑤料金回収率」についても、給水収益の減少のため100%を下回っているが、「⑥給水原価」については、給水人口密度が高いことから効率的な給水を実施できており、類似団体平均よりも大幅に低い状況にある。このほか、「⑦施設利用率」については、今後も配水量の増加を見込み難い状況にあることから、施設更新時には適切な施設能力を見極め、ダウンサイジングを検討する必要がある。

「⑧有収率」は、直近5年間に於いて95%以上の高水準で推移しており、全国平均及び類似団体平均を大きく上回っている。漏水調査や老朽管の更新などへの積極的な投資が効果を発揮しており、今後もこの水準を維持していくことが重要となる。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は45%程度となっており、類似団体平均と比べて施設の老朽度合いが低い状況にあり、健全性は保たれている。

「②管路経年化率」は管路の更新事業も進めていることから健全性が高く保たれており、直近5年間の類似団体平均値と比較すると、令和2年度に1/10以下となり、以降もその割合は年々減少している。

「③管路更新率」は、規模の大きい更新工事を翌年度に繰り越して実施するケースが繰り返し発生しており、類似団体平均と比較すると、令和1～2年度及び3～4年度の2年単位、また直近5年間の合計のいずれにおいても上回っている。

全体総括

経営の健全性及び効率性に係る指標を分析すると、蕨市の経営状況はおおむね健全な状態であるといえる。

しかし、事業を取り巻く環境としては、人口減少や少子高齢化などによる水需要の減少が想定される中で、経年化施設の更新や大規模災害に対する応急給水・応急復旧の整備を適切に履行していく必要がある。

このような状況の中、本年度から計画期間となった、新たな蕨市水道事業ビジョンに基づき、主要管路の耐震化や水道施設の長寿命化、応急給水体制の整備などを計画的に行っている。併せて財政状況についても、企業債残高の低減など健全経営に向けた取組を推進し、引き続き『将来にわたって健全な水道』の更なる強化を図っていく。

経営比較分析表（令和5年度決算）

埼玉県熊谷市 市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	7	-	透 訓	救 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
75,646	6,866	非該当	非該当	10：1

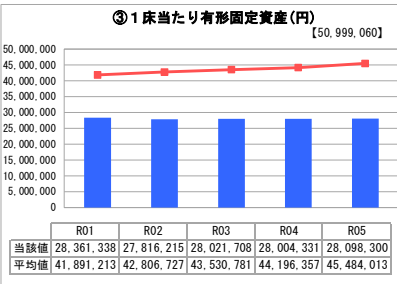
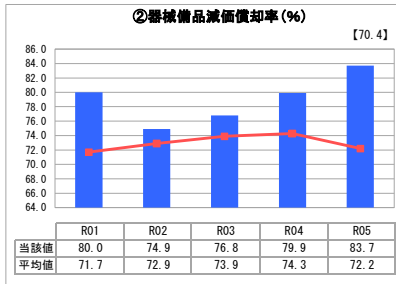
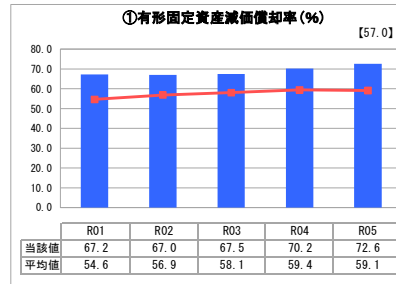
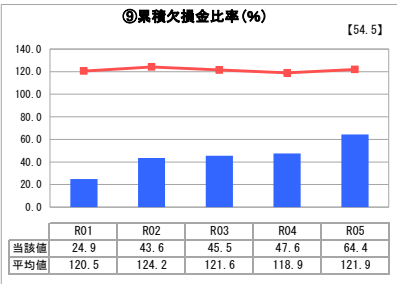
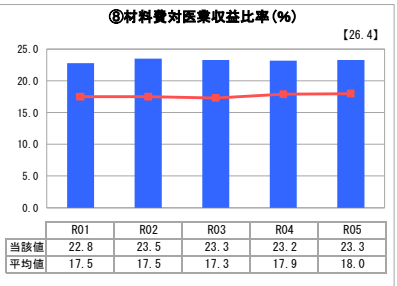
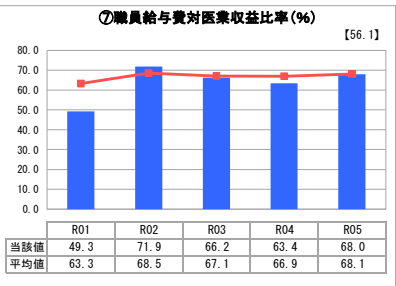
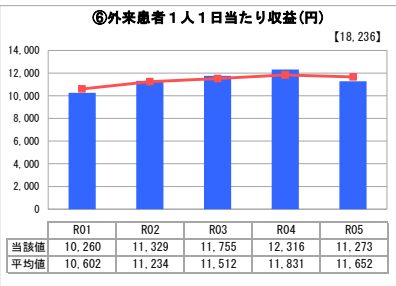
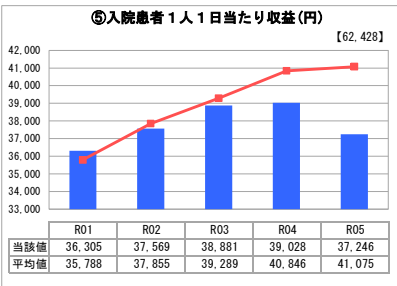
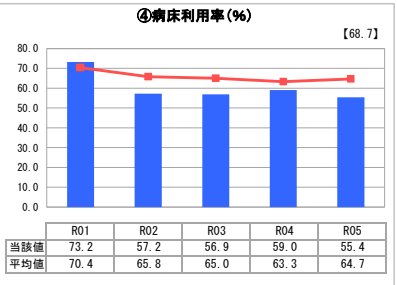
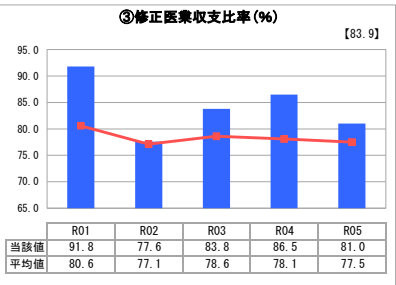
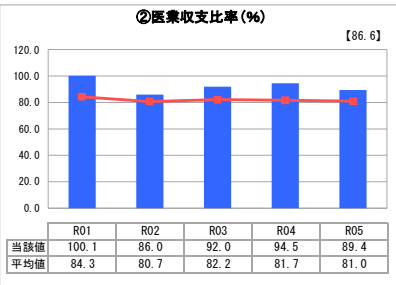
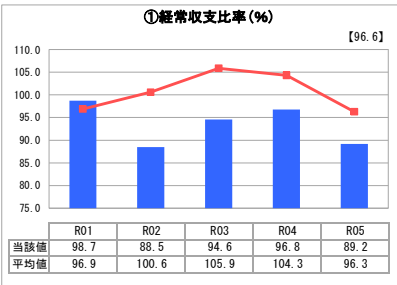
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
130	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	130
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
104	-	104

グラフ凡例		
■	当該病院値（当該値）	
—	類似病院平均値（平均値）	
□	令和5年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の詳細・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

当院は、市内で唯一の救急病院であり、分岐できる施設として、地域医療の重要な役割を担っている。不採算部門とされる小児科及び小児救急も行っており、公立病院としての役割を維持している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和5年度は、患者数の減や新型コロナ関連の特例加算廃止等の影響により、入院・外来収益が減収となり、前年度を上回る損失を計上することとなった。
③修正医業収支比率は81.0%であり、類似病院の平均を上回っているが、減収分を補助金や一般会計負担金では補いきれず①経常収支比率は100%を下回り純損失を計上することとなった。また、医業収益の減少により⑦職員給与費対医業収益比率も高水準となっている。
なお、一般会計負担金については、基準外の繰入は行っていない。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率は、類似病院平均値を上回り、当院の有形固定資産は老朽化が進んでいると言える。
当院は現在、建物の移転建替え計画を進めており、今後の器械備品や設備の更新については、整備事業の進捗に併せて慎重に検討していく必要がある。

全体総括

令和5年度は、医師の退職や患者数の減少等により収益が減少し、経営に係る各指標が低い水準となった。⑨累積欠損金比率は類似病院平均を下回っているものの増加傾向である。
今後は、経営の健全化のため④病床利用率の回復及び⑤入院患者1人1日当たり収益を上げていくことで⑦職員給与費対医業収益比率、⑧材料費対医業収益比率の改善等、効率的な病院運営に取り組んでいく必要がある。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和5年度決算）

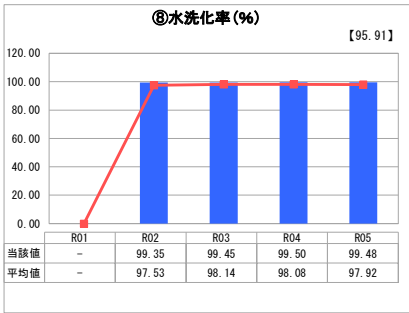
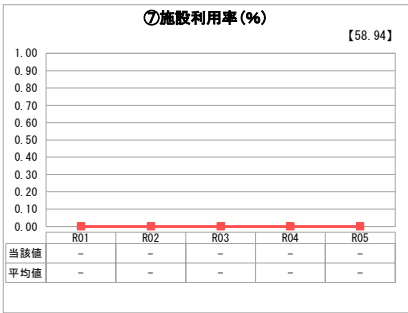
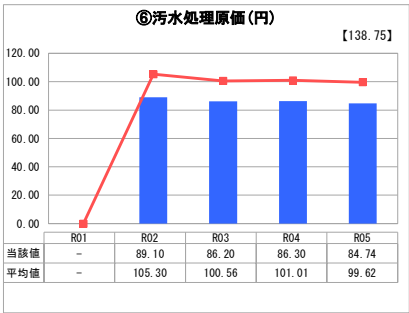
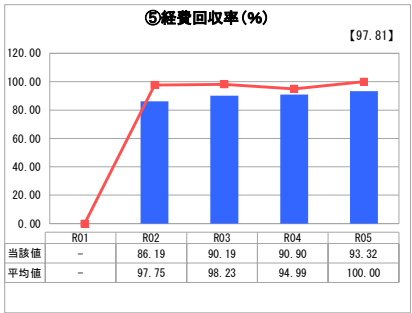
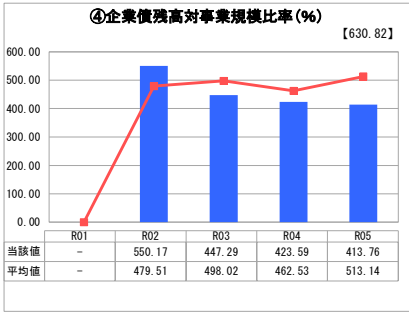
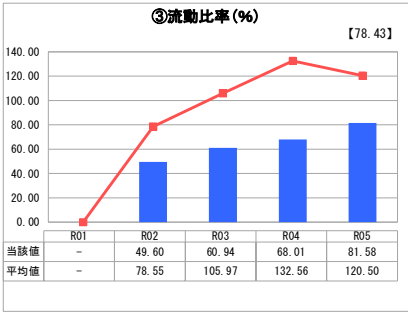
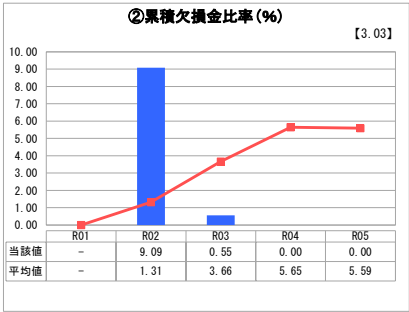
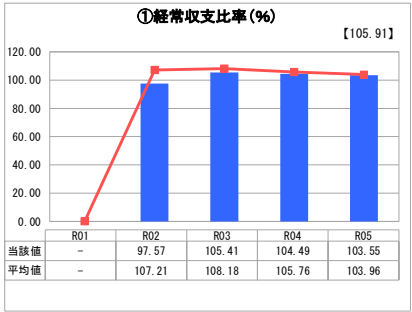
埼玉県 蕨市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ba	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	58.75	97.03	82.77	1,309

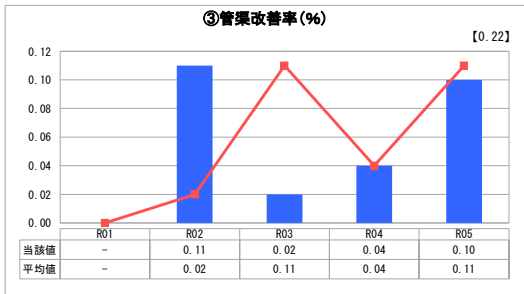
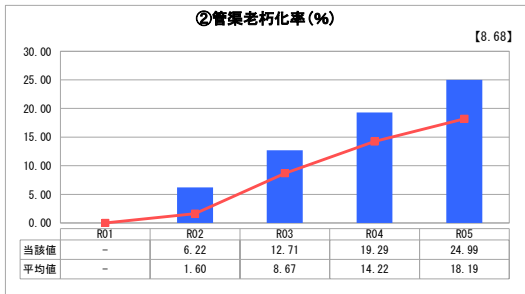
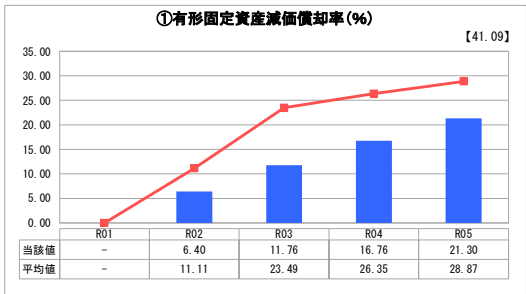
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
75,646	60.24	1,255.74
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
73,655	4.82	15,281.12

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
100%を上回っており、全国・類似団体と近い水準にあるが、経費回収率は100%を下回っているため、今後も経営の効率化に努める必要がある。

②累積欠損金比率
法適用初年度より発生していた未処理欠損金は、翌年度以降の純利益により令和4年度に解消された。

③流動比率
年々増加しているが、未だ100%を下回っており、類似団体と比較しても低い数値となっている。今後、企業としての支払能力を高めるため流動資産の確保に努める必要がある。

④企業債残高対事業規模比率
全国・類似団体より低い数値となっているが、今後も企業債残高に留意しながら必要な建設投資を計画的に行っていく。

⑤経費回収率
前年度より上昇したが、100%を下回っており、汚水処理に係る費用の一部が下水道使用料以外の収入により賄われている状態である。新規に下水道を敷設する地域は使用料の増加も見込めるが、その反面、工事費もかかるため経費の削減に努めるとともに適正な使用料を検討していく必要がある。

⑥汚水処理原価
全国・類似団体より低くなっており、効率的な汚水処理が実施されていると考えられるが、今後、施設の老朽化への対応が控えているため、より一層効率的な維持管理を行い、経費を削減していく必要がある。

⑦施設利用率
蕨市では県の処理場に送水しているため、値は未記入となる。

⑧水洗化率
99%と高い値を示しているが、下水道整備済地区で浄化槽等を使用している家屋もあるため、下水道へ接続するよう指導を行う。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
全国・類似団体から大きく下回る水準となっているが、法適用前に減価償却された資産については減価償却累計額に計上されていないことによるものである。

②管渠老朽化率・③管渠改善率
今後も法定耐用年数を超える管渠の増加に伴い、管渠老朽化率も増加していく見込みである。そのため、施設の延命化とライフサイクルコストの最小化を図るべく、令和元年度よりストックマネジメント計画に基づいた管路の計画的な改築修繕を実施している。

全体総括

今後、汚水管と雨水管の新設工事に加え、既設管渠等の改築が控えているため、将来的に維持管理費が増加し全体的に支出が増える見込みである。下水道使用料の収納率を上げることによる収益増加や、不明水対策による有収率の向上、計画的かつ効率的な維持管理によるコストの削減などを進め、経営をより健全化していかねばならない。そのため今後も、令和2年度に策定した経営戦略に基づき財政マネジメントを向上させていくとともに、令和2年度より移行した公営企業会計の損益情報・資産情報からの確に経営状況を把握・分析し、経営改善に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。